

特別寄稿

思川開発事業による
安定給水の確保に向けて

茨城県古河市長

小久保 忠男



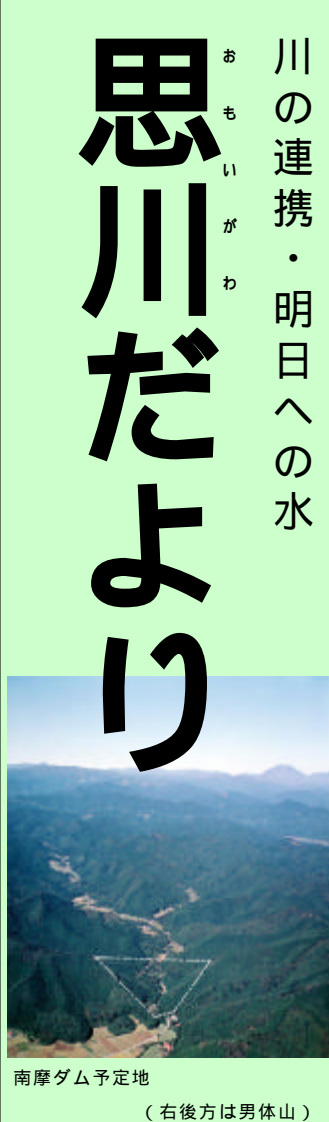
当市の水道事業は、昭和35年に事業認可を受け、昭和37年から地下水を水源として給水を開始しました。しかし、昭和45年には、一人当たり給水量や給水人口の増加などにより、既存の深井戸だけでは不足を生じ、時間給水を余儀なくされることとなりました。そのため、地下水及び表流水を水源とする拡張事業の認可を受け、思川開発事業に参画することを前提とした暫定水利権により、昭和49年から思川より取水を開始し、今日に至っております。したがって、市民への水供給は不安定なものであり、安定給水の確保が長年の懸案となっておりました。そのような中、実施計画調査着手以来30数年が経過し、大谷川分水中止等による計画の見直しが行われた思川開発事業は、平成13年12月に、損失補償基準に関する協定書の調印が行われ、苦渋の決断をされた水没地の皆様方には、心から感謝申し上げます。脱ダムの風潮が強まる現在、市民への安定給水を図ることが地方自治体の使命であり責任でもあるということをお考えのとき、一日も早い事業の完成を期待します。なお、今後の事業実施につきましては、事業費の縮減はもちろんのこと、森林の伐採等を最小限に食い止め、環境に与える負荷を可能な限り小さくするなどの努力を望みます。最後に、工事期間中における皆様方の無事故、安全をご祈念申し上げます。

新任御挨拶

所長 野口澄彦



青江前所長の後任として、この10月1日付で思川開発建設所長を拝命致しました。野口です。まだお目にかかれないうちに皆様方には紙面を借りてご挨拶させていただきます。思川開発事業につきましては、日頃から多大なるご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。昨年、南摩ダム建設に伴う損失補償基準に関する調印を行い、現在、移転される皆様方の生活再建のための補償契約を行うとともに、集団移転地である西沢、上南摩の造成工事につきまして、急ピッチで工事を進めております。また、南摩ダムの建設とともに思川開発事業の根幹をなす取水・導水地区につきましましては、今後とも地元関係団体、地域住民の方々へ事業の必要性、計画等についてご理解いただければ幸いです。今後とも皆様のご支援、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。



南摩ダム予定地 (右後方は男体山)

発行所
水資源開発公団
思川開発建設所
☎028-622-8941
発行人兼編集人
柴田 安宏



事業の最新情報を皆様にお伝えします

おもいがわトピックス



板荷地区説明会の様子(9月10日)

【取水導水地区】
取水導水地区については、昨年末から今年初めにかけて、黒川、大芦川、荒井川の各河川ごとに自治会等を中心とした対策協議会が組織されました。9月6日には加蘇地区、10日には板荷地区、27日には東大芦地区と、各協議会役員の方々に対して、事業の目的や取水・導水の仕組み等についての説明会を開催し、思川開発事業へのご理解・ご協力をお願いしました。また、10月8日から9日にかけて、奈良俣ダム湯ノ小屋取水と群馬用水を取水先例地としてご視察いただきました。今後、引き続き説明会などを開催し、早期に用地調査等に着手できるよう、地元の皆様のご理解・ご協力をお願いして参ります。



【移転代替地】
南摩ダムに係る移転対象者の方々のための集団移転代替地の造成工事を、鹿沼市の西沢地区及び上南摩地区の2カ所で行っています。年内に移転を開始される予定の方がいらっしゃることから、現在、急ピッチで工事を進めております。

【室瀬地区】
これまで室瀬地区の方々は、南摩ダムの建設に絶対反対の立場を続けてきておりました。昨年、事業規模縮小に伴い事業計画を見直した結果、室瀬地区に対する工事の影響も小さくなりました。そこで本年2月に、室瀬地区の方々へそのことについてご説明し、改めて事業に対するご理解を求めて参りました。その結果、8月には一部の方を除いて、ダム建設を容認していただくことが出来ました。その後、室瀬地区から公団等へ要望書が提出されるなど、話し合いが一歩ずつ進んできております。今後とも種々ご説明していく中で、一層のご理解を求めて参ります。



ダム直下流の室瀬地区



上南摩(上) 西沢(下)の各移転代替地

こんにちは！ 南摩の仲間たち

コウモリ目ヒナコウモリ科 ニホンテングコウモリ *Murina hilgendorfi*



撮影：平成13年度調査で捕獲し体長を計測中
捕獲許可 環境北開許第454号 鹿林第636号

コウモリは、一晩に体重の半分くらいの昆虫（蛾類など）を捕食すると言われており、農家にとっては害虫を駆除してくれるありがたい益獣です。

南摩ダム周辺で実施した環境調査では、レッドデータブックで絶滅危惧類に選定されているニホンテングコウモリを確認しています。

ニホンテングコウモリは大木の多い地域では樹洞を昼間の隠れ家にしますが、南摩ダム周辺の多くは植林地のため樹洞のある大木は少なく、ダムの地質調査のために掘った横坑や、昭和30年代前半までに掘られた鉱物試掘坑（マンガン坑）を隠れ家として利用しているようです。

南摩ダムで見つかったコウモリの隠れ家には、ダム工事の影響を受けられないものや、一部を残すことが可能なものがあり、専門家の指導・助言を得ながら適切に保全していきます。

なお、コウモリ類の調査には、コウモリが発する超音波をキャッチして人間の可聴周波数に変換する専用の装置（バットディテクター）等を用います。



感動を呼んだミュージカル「リバーヘッド」



「リバーヘッド」で改めて考えさせられました。

編集記

この夏、関東地方は、梅雨の時期が長引き、大雨が降り、被害が甚多です。

水の週間行事

総合文化センターで開催



表彰を受ける駒場奈保美さん

特別賞を受賞しました。

平成14年8月6日、栃木県総合文化センター（宇都宮市）において栃木県水会・栃木県水週間行事主催の「水の週間」が、第24回全日本中学生水会コンクール栃木県審査会から、南摩ダム移転協力者から受賞者として表彰され、水の作文コンクールの表彰式と森と川と水源地のものがたりミュージカル上演されました。

水の作文コンクール栃木県審査会 南摩ダム移転協力者からも受賞者

内容です。このようなストーリー

密集中で、水に不自

ミュージカル「RIVER HEAD」上演 森と川と水源地のものがたり

このミュージカルは、水源地のものがたりを舞台にした。水が生命の源であり、水を守ることが大切である。

栗山村を舞台に、水のありがたさ、大切さ、水源を守る人々の想いを巧みに表現

0人の方々が見た。

感動を呼んだ。

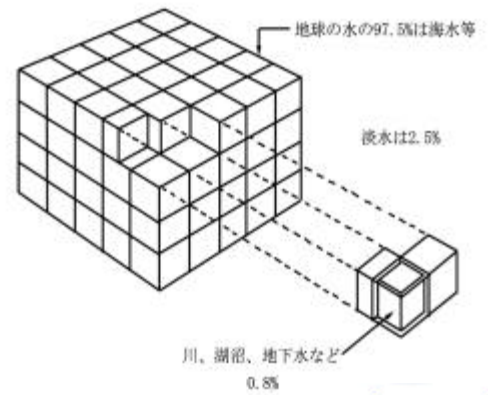
第一用地課長	新井
副所長	柴田 安宏（第一用地課）
所内異動	西村 政幸（草木ダム）
用地課長	野口 澄彦（本社企画部）
環境課長	小笠原 幹生（木津川総管）
副所長	金田 学（本社用地部）
所長	青江 淳（本社環境室）
転出者	太田 道男（試験研究所）
転出者	8月1日付
環境課長	10月1日付



その「地球の水はなし」

地球上にある水の量は、およそ14億km³とされています。そのうちの約97.5%が海水で、淡水は約2.5%です。この淡水の大部分は、南極や北極の氷であり、地下水や河川、湖沼の水は地球上の水の約0.8%にすぎません。さらにこの淡水は、ほとんどが地下水であり、人間が利用することが比較的容易な河川水や湖沼水は、地球上の水のわずか約0.01%にすぎません。地球は水の惑星と言われるそうですが、人間が利用できる淡水はごくわずかであることが分かります。

参考文献 国土交通省水資源部：「平成13年版 日本の水資源」
(注)：V.I.Korzoun and A.A.Sokolov:World



Water Balance and Water Resources of the Earth E/CONF.70/TP127(1977年)
(国際水会議資料)

